

DevOps 文化への変革を進める際の 10 のヒント

テクノロジーは、DevOps のほんの一部でしかありません。DevOps の大部分はコラボレーションです。チーム同士のコラボレーションの形、そして組織が変革していく道筋においては、文化が極めて大きな役割を果たします。このチェックリストでは、DevOps イニシアチブを成功に導く組織的文化を構築する方法について説明します。

ここで紹介するヒントは、Red Hat® サービスに所属する変革のエキスパートたちが執筆した書籍「OpenShift による DevOps の文化と実践：人、プロセス、テクノロジーを通じて継続的にビジネス価値を実現する」からの抜粋です。

1 確かな基盤を構築する

文化と技術的実践の両方を使って強力な基礎を築けば、ビジネスアジリティの獲得に役立ちます。

共感、つながり、結果の共有を創り出す文化的実践はしばしば見過ごされます。しかし継続的にイノベーションを行い、前に進み続けることを目指す組織には、これらの実践と、価値実現までの時間および価値提供の頻度を向上させる技術的実践がこの上もなく重要です。

2 向上を続ける

たとえ少しの変化でも、それを続けていれば、効率と結果のどてつもなく大きな向上につなげることができます。

優れたパフォーマンスを発揮するチームは、継続的にプロセスの見直しを行い、新しいアイデアを試し、結果を測定し、進行状況を確認します。そのようなチームは、すべてのことが必ず良い結果につながるのではないこと、そして、失敗とそこからの学習は向上のロードマップの一部であることを知っています。

3 常に学び続ける

新しいことを試し続けましょう。安全に失敗すること、早期に失敗すること、新しいことに挑戦すること。そしてなによりも、常に結果を測定し、そこから学びましょう。

新しいアイデア、異なる考え方に対して目をつぶらないようにしましょう。挑戦し、評価し、調整してやり直すことから、多くのことを学ぶことができます。チームがそのような学びを

実践する余地を作ることで、イノベーションを促進し、文化に寄与することができます。また、学んだ内容はチームや組織の壁を超えて共有しましょう。新しいアプローチ、テクノロジー、洞察に関する透明性を持つことで、イノベーションを起こす文化を作ることができます。

4 仕事をエンドレスなループと考える

Red Hat ではこれを #neverdone (永遠の未完成) と呼んでいます。なぜなら、対象の製品、プラットフォーム、または組織が提供終了となるまで、終わることのないループとして仕事を回していくからです。

製品は常に進出し続けます。本当の意味でイノベーションを行い、常に向上させていこうとすると、その仕事には「これで終わり」というポイントはありません。製品が現役としてのライフサイクルを終えて初めて、チームは新しい製品やソリューションへの取り組みを開始します。

5 目で見えるように示す

仕事を可視化すると、結果、進行状況、価値の透明性を獲得するのに役立ちます。

仕事を目で見える形で示す（たとえば、シンプルに付箋を壁に貼り付けるなど）と、会話や議論の呼び水となります。このアプローチはチーム間で使用することもでき、外部の関係者に進行状況が見えるようにするのに役立ちます。図やグラフによる可視化は常にできるとは限りませんが、仮想ホワイトボードなどのツールを使って進行状況、アイデア、結果を見えるようにすることには極めて大きな価値があります。

6 文化が重要

文化を定義することは必ずしも簡単ではありません。文化とはチームの連帯感です。共通のジョークであり、軽口であり、あるいは良いときも悪いときもチームメンバーを結束させる、お互いへの信頼です。

文化は一夜にして築けるものではありません。組織のあらゆるレベルで、これらの共通の要素を助長し、実践していく必要があります。時間の無駄のように見えることもあるかもしれませんが。しかし長期的に見れば、オープンな文化は組織全体として成功を収めるための鍵となります。

7 人に投資する

文化は、構築するのは難しく、壊すのは簡単です。油断しているときにモチベーションは失われ、信頼は崩れ去ります。

組織にとって最も重要な資産は人材です。テクノロジーは常に変化していきますが、そのテクノロジーから価値を生み出したり、テクノロジーを活用してイノベーションを起こしたりするには人の手が必要であり、またそれこそが長期的な成功の礎となります。状況確認のためのミーティングをこまめに行い、学びや成長のための時間を作れば、将来的には大きな実を結ぶでしょう。

8 参加者全員の声に耳を傾ける

オープンな精神を持ち、他者の視点から物事を見ることをいとわないようにしましょう。

Red Hat では、会議で他の人の意見に対して新しい視点を提示するときには「でも」とは言わずに「そうですね、そして」と言うことを実践しています。会話の中でそのような言葉遣いを心がけると、他者の考えの価値を貶めることなく自分の意見を伝えることができます。



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

f fb.com/RedHatJapan
 t twitter.com/RedHatJapan
 in linkedin.com/company/red-hat

アジア太平洋
+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア
1800 733 428

インド
+91 22 3987 8888

インドネシア
001 803 440 224

日本
03 4590 7472

韓国
080 708 0880

マレーシア
1800 812 678

ニュージーランド
0800 450 503

シンガポール
800 448 1430

中国
800 810 2100

香港
800 901 222

台湾
0800 666 052

9 小さく始めて素早く学ぶ

ビジネスが今抱えている問題を解決しましょう。

チームのキャパシティ以上のことをしようとすると、物事が進まなくなるばかりか、モチベーションの低下も招きます。ビジネスの課題を理解するための時間を取り、それを解決するソリューションを設計しましょう。不要なアーキテクチャを設計し、デプロイしてはいけません。必要を満たすのに十分なことだけを行い、結果を出して、それから次の課題に移りましょう。

10 楽しむ

作業の中に楽しさを見つけましょう。チームメンバーに関する理解を深め、つながりを強める活動をする時間を取り、お互いに話しかけましょう。

イノベーションを起こす文化の中で、最も過小評価されているのは楽しさであると言っても過言ではありません。楽しい時間を共有し、経験を分かち合う中で培われた個人的なつながりほど強いものではありません。つらい状況に陥ったとき、チームを奮い立たせるのはそのような時間です。

さらに詳しく

DevOps、コラボレーション、文化的実践、エンジニアリングの実践が Red Hat OpenShift® でどのように実現されるかについて詳しくは、[e ブックのシリーズをご覧ください](#)。